

将来の家庭経営における男女共生の意識を育てるために ——乳児体験学習 4 年を終えて——

六波羅 美 代
Miyo ROKUHARA

I. はじめに

これから迎えようとする21世紀においては、ますます多様な家族のあり方が、出現するといわれている。即ち妻が働くことで、夫も家事、育児を共同するようになり、男女平等型家族を中心とする多様な家族形態になるであろうといわれている。

将来の家庭経営を考えた時、1994年度から全国で「家庭一般」が男女必修科目になったことは、大変評価できると考えられる。辰野高校では「家庭一般」2単位男女共修実施は1989年からであり1991年から選択教科「保育」を共修で実施している。

「保育」の学習は単に知識として覚えたり、技術の習得ではなく、知識の把握の上に、実践の場を持ち、体験学習を通して新しい発見をし、視野を広め、新鮮な感動を覚えていくことが必要と考えられる。特に高校生は素直に感動し、その感動が持続する純粋な年代だと思われる。

この期に男女で体験学習を通し、男女共生の意識を育てる事を目的として、乳児体験学習、保育園実習、老人保健施設体験学習等を実施した4年間の学習効果を報告する。

II. 方法および調査

1. 体験学習の方法

1) 乳児体験学習

生後三ヵ月か五ヵ月の乳児検診時、その場に参加し、一人の赤ちゃんに一人の生徒が付き、実際に赤ちゃんを抱いたり、お母さんの話を聞き、育児の苦労や喜びを知る体験学習で、生後間もない小さな生命と触れ合うことで、彼らは親になること、命の尊さを学び、命に触れる感動を体験している。

2) 保育園実習

手作りの遊具として製作した手袋人形を使っての人形劇を2回、2~3人のグループで製作した手作りケーキを持つの会食会を1回、自由遊び1回実施。

カラー軍手による手袋人形は、ぬくもりがあり、安全で想像性を育み、大変良い遊具と思われる。

手作りのデコレーションケーキは、子供の誕生日や家族の祝日などに、手作りのケーキ

を自分で出来る自信とそれを一緒に会食する喜びを感じてほしいと願った。

少子化がすすんでいる昨今、生徒の周りに乳幼児はほとんどいなく、近所にいる生徒が一割位で、その他は接する範囲にいないのが現状である。

こどもについて「嫌い」と思っている生徒が、実際にこどもと一緒に触れ合うことにより、「少し好き」「かわいい」と変化している。

3) 老人保健施設体験学習

乳児体験学習で「いのち」の尊さを感じていることを見た時、保育の授業では老人についての体験学習も必要ではないかと考え 1993年から実施した。

老人二人から三人に生徒一人入って、全員で手遊び、肩叩きゲーム、手つなぎ遊び、名前呼び遊びなどをして、ふれあいの体験学習。

自分の命と共に他人の命の大切さ、生きることの大切さに気づいてほしいと願い実施した。

2. 乳児体験学習、保育園実習実施後の意識変化の調査 (1991年～1993年)

1) 方法

質問紙による調査。授業始めの4月、各体験学習後、授業終了の2月実施。

2) 質問項目

- ①こどもについて好き、嫌いなど ②保育を学ぶ必要性 ③男子が保育を学ぶこと
④将来、夫が育児にかかわること。の4項目である。

3) 解答方法

- ①大変必要 ②少し必要 ③どちらでもない ④あまり必要ない。⑤必要ない。の5段階に解答。これを①を5点～⑤を1点として数値化して年間変化を比較した。

3. 乳児体験学習及び老人福祉施設体験学習実施後の調査 (1993年、1994年)

1) 方法

それぞれの体験学習の前と実施後に質問紙により調査

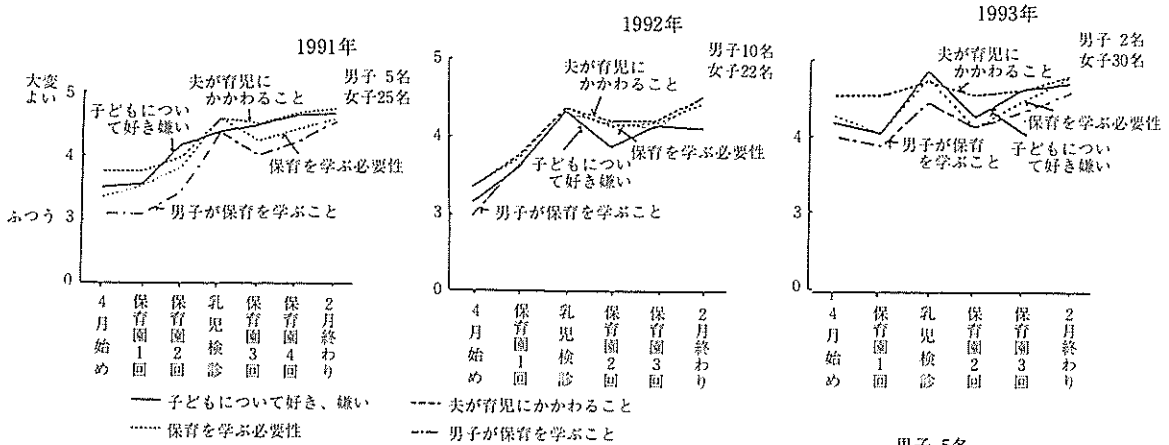
2) 解答方法

- ①大変必要 ②どちらでもない ③必要ない。の3段階に解答。これを①を+1, ②を0, ③を-1として数値化して実施前と実施後と比較。

III. 結果及び考察

1) 乳児体験学習、保育園実習実施後の意識変化の調査結果

年間意識変化



(表1) 変化の割合

人数30名 男子 5名
 女子 25名
 1991. 4 ~ 1992. 2

項目	五段階解答	4月 初め	保育園 実習 一回目 遊びだ け 6月	保育園 実習 二回目 人形劇 遊び 7月8月	乳児 検診 役場へ 7月8月	保育園 実習 三回目 人形劇 11月	保育園 実習 四回目 ケーキ 12月	2月 終わり
子どもについて 好き ↑ 嫌い	1	19%	21%	31%	57%	60%	74%	74%
	2	37	34	54	27	27	15	16
	3	22	24	15	13	13	11	10
	4	19	21	0	3	0	0	0
	5	3	0	0	0	0	0	0
保育を学ぶ必要性 必要 ↑ 必要ない	1	15	14	23	63	37	48	63
	2	19	38	35	30	50	45	30
	3	44	34	42	7	13	7	7
	4	22	14	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0
男子が保育を学ぶ事 必要 ↑ 必要ない	1	4	0	0	47	23	41	57
	2	26	24	54	47	57	52	40
	3	52	62	35	3	17	7	3
	4	15	14	42	3	3	0	0
	5	3	0	0	0	0	0	0
夫が育児にかかわる事 必要 ↑ 必要ない	1	15	10	23	60	53	74	77
	2	44	55	50	37	44	19	20
	3	37	35	27	3	3	7	3
	4	3	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0

①どの項目も3年間ほぼ同じ結果を示している。

②保育園実習の回数や体験学習を重ねる程、いずれの項目も望まれる傾向になる。体験実習を多く実施した方が、より学習効果が上がるといえる。

③乳児体験学習実施はどの項目も非常に上昇している。

共に生きることを学ぶ上に大変効果が大きい学習であるといえる。

④夫が育児にかかわることについては、1993年から「大変必要である」と定着している。「家庭一般」が男女必修になるという社会の中で、もう生徒の意識の中には、それは当然のこととして受けとめているのではないか。

2) 乳児体験学習及び老人福祉施設体験学習実施後の意識変化の調査結果

保育の授業前と後の意識の差

1993年 32名

1994年 50名

質問項目	授業前と授業後 3段階に解答	授 業 前			授 業 後		
		- 1	0	+ 1	- 1	0	+ 1
1) 保育学習に関心はありましたか	1993年	3	13	16	0	2	30
	1994年	6	16	27	1	8	40
2) 母性保健に関心はありましたか		9	13	10	1	8	23
		14	22	12	0	13	35
3) 保育学習は必要ですか		1	10	21	0	0	32
		5	21	23	0	4	45
4) 男子にも保育は必要だと思いましたか		4	15	13	1	2	29
		15	13	19	0	3	44
5) 夫が育児にかかわることについてどう思いますか		0	11	19	0	2	28
		0	11	37	0	2	46
6) 乳幼児は好きですか		0	8	24	0	3	29
		5	12	32	0	16	33
7) 3カ月、5カ月の赤ちゃんを、抱いて見たいと思いましたか		4	6	22	1	0	31
		8	19	21	1	11	36
8) 乳児検診に行く前と後で、赤ちゃんの好きな度合いは		0	6	26	0	1	31
		3	11	34	0	7	41
9) 乳児検診に行く前と後で、人間の命について考える度合いは		12	18	2	0	11	21
		15	26	5	1	18	27
10) 老人福祉施設に行き、老人とお話してみたいと思いましたか		14	10	7	0	12	19
		22	18	8	4	20	24
11) 老人福祉施設に行く前と後で老人が好きな度合いは		8	14	8	1	12	17
		9	29	10	2	20	26
12) 老人福祉施設に行く前と後で、人間の命について考える度合いは		12	17	2	0	15	16
		18	27	5	0	17	33
13) 手作りのデコレーションケーキを作りたいですか(作って保育園に行った前と後)		3	6	23	0	0	32
		5	17	28	0	10	40
14) 手作り遊具(おもちゃ)を作りたいですか 手袋人形を作って保育園で人形劇をした前後		9	18	5	0	15	17
		17	28	5	4	15	31

(注) 解答はすべて [(-1)嫌い, 必要ない—(0)ふつう, 中間—(+1)好き, 大変必要]

1994年度 50名

1994年度 △授業 ≡ ≡ ≡ ○授業後

前 後 (- 1) ←否定的 (0) 肯定的→ (+ 1)

1) 保育学習に関心はありましたか	
2) 母性保健に関心はありましたか	
3) 保育学習は必要ですか	
4) 男子にも保育は必要だと思いましたか	
5) 夫が育児にかかわることについてどう思いますか	
6) 乳幼児は好きですか	
7) 3カ月、5カ月の赤ちゃんを、抱いて見たいと思いましたか	
8) 乳児検診に行く前と後で、赤ちゃんの好きな度合いは	
9) 乳児検診に行く前と後で、人間の命について考える度合いは	
10) 老人福祉施設に行き、老人とお話してみたいと思いましたか	
11) 老人福祉施設に行く前と後で老人が好きな度合いは	
12) 老人福祉施設に行く前と後で、人間の命について考える度合いは	
13) 手作りのデコレーションケーキを作りたいですか（作って保育園に行った前と後）	
14) 手作り遊具（おもちゃ）を作りたいですか 手袋人形を作って保育園で人形劇をした前後	

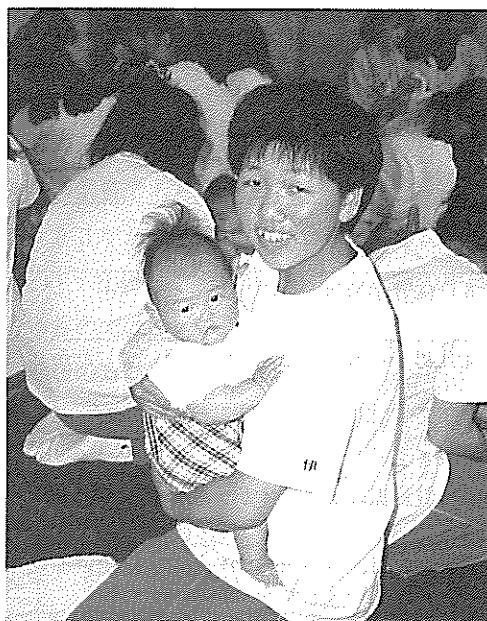
(注) 解答はすべて [(-1)嫌い, ない, 必要——(0)ふつう, 中間——(+1)好き, 大変必要] のいずれかに○をする方法。上図は全員の平均値。

- ①乳児体験学習により、こどもが好き、人間の命の大切さについての意識変化が大きい。
- ②老人保健施設体験学習により、老人と話をしてみたいと思う気持ち、また人間の命の大切さについての意識変化が大きい。
- ③夫が育児にかかわることについては、1993年より、「必要である」という高い数値で定着している。
- ④「保育」の授業始めと授業後において、男子にも保育は必要であると変化し、母性保健にも関心を持つようになった生徒が多い。

乳児のお母さん方の感想より

男の子もどんどん参加して!!

- ・世の中、色々悲しい事件が起きていますが、少しでもこういうことが無くなればいい。命を考えるには良い企画だと思います。
- ・母親になって、はじめて子供を抱いた時自信がもてると思います。男の子もどんどんやって下さい。
- ・私自身は自分の子供ができるまで、ほとんど赤ちゃんと接する機会がなかったので、このような学習は良いことです。



IV. まとめ

近年はこどもを生み育てない生き方をも選ぶ傾向も見られ、少子化が進んでいる昨今の状況にもかかわらず、生徒の感想文を見ていると、心の中に、母性意識、父性意識、親になること、人間の生と死についても考え始めてる。

しかし現実の社会は、女性については男女機会均等法とはいえ、母性をも犠牲にせざるを得ない労働の在り方。男性については単身赴任、長距離通勤、長時間労働、これらについても目を向け、就業状況の改善にも努力していかなければ、21世紀の家庭経営が真に男女共生のものとならないであろう。そして男女平等型家族を中心に高齢者や障害者も一緒に生きるノーマライゼーションの方向に向ってほしいと願っている。

これらの学習を通して人生を選択する時、いつの、どんな時代にも「いのち」を大切に、将来の家庭経営は男女共生でとした生き方を選択してほしいと願い、高校生に対する上記体験学習の結果よりみて、このような学習の進め方がある程度の効果をもたらしたことを示唆として、今後の共生の意識を育てる方途としたい。

「注」

本稿は、1995年7月29日、日本家庭科教育学会北陸地区総会（富山大学教育学部に於いて）にて、口頭発表したものである。